

M36b SXT による Transient coronal hole の研究

笠原将一、日江井榮二郎（明星大）

本研究では、「ようこう」の軟X線望遠鏡で得られたデータのうち1991年11月から1994年末までのデータの中から Transient coronal hole を探しだし、解析を行った。Transient coronal hole という現象はおもに静穏領域などのコロナが満ちているところで、その名の通り一時的にコロナホールができ、数時間後に元通りになってしまう現象である。Transient coronal hole の研究は最近になって始められたもので今までも数名の研究者が個々の現象について行っている。しかし、統計的に Transient coronal hole を整理しまとめた人はいなかった。そこで、これらのリストをもとに Solar Geophysical Data に記載されている H の情報と比較をし Transient coronal hole の発生原因を調べるのが研究の目的であった。その結果、Transient coronal hole と思われる現象が90個ほど見つかった。そして、その現象が起こる要因として、90個のうちの75